

修繕費

2023年 2月 6日
北陸電力株式会社

【北陸電力】修繕費の概要

- 修繕費は、電力の安定供給や安全の確保に必要な設備点検・補修等の機能維持対策を着実に進めていく計画とし、火力発電所の高経年・高稼働影響による補修費用の増加や、志賀原子力発電所2号機の再稼働に必要な起動前点検費用等により、現行原価対比で79億円増加しております。
- なお、申請原価は、上流購買の推進や新技術の導入による仕様・工法の見直し等の効率化を年平均27億円織り込み、特殊要因を除いた場合、メルクマール（直近5年の実績修繕費率[帳簿原価に占める修繕費の割合]）以下となるよう抑制しております。

■ 修繕費の内訳

(億円)

	今回 A (3か年平均)	現行 B (2008)	差引 A - B
水 力	67	72	▲5
火 力	241	185	56
原 子 力	97	71	26
新 工 ネ	0	-	0
業 務	9	8	1
合 計	415	337	79

■ 主な増加要因

(億円)

- | | |
|--------------------------|------|
| ・ 火力設備の高経年・高稼働等による補修費用の増 | : 56 |
| ・ 志賀原子力発電所2号機起動前点検による増 | : 38 |

■ メルクマールとの比較

(億円)

	今 回 [特殊要因※ ¹ 除き]	メルクマール (直近5年※ ² 実績平均)
平均修繕費(A)	415 [377]	359
平均帳簿原価(B)	23,096	21,991
修繕費率(A/B)	1.80% [1.63%]	1.63%

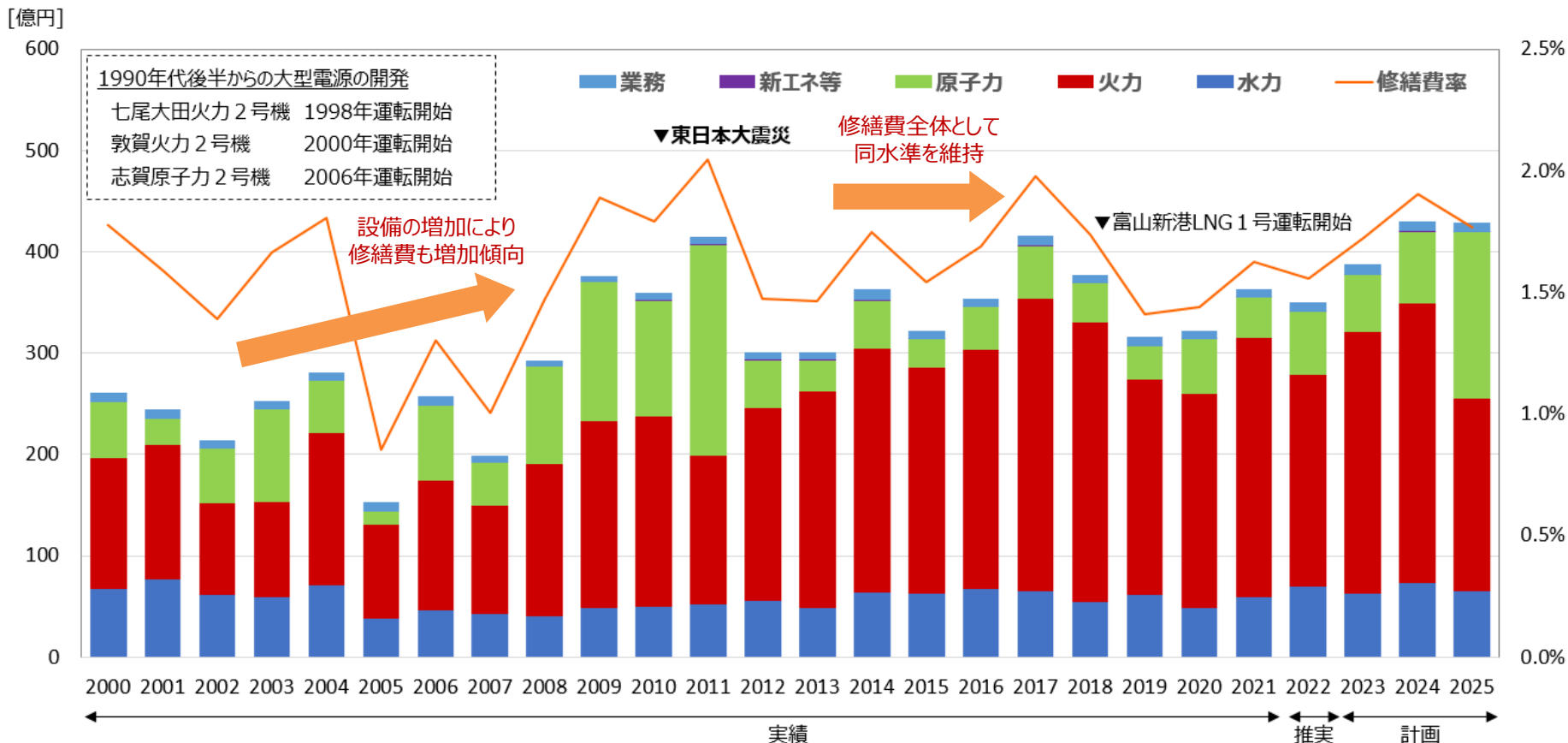
※1 志賀2号機起動前点検 38億円/年平均

※2 2017~2021年度

【北陸電力】2000年度からの修繕費の推移について

- 当社は1990年代後半から2000年代初頭にかけて大型電源の開発を行っており、2000年代は対象設備の増加により、修繕費も増加傾向にありました。
- 2011年の東日本大震災以降は、原子力発電所が長期停止となったため、原子力修繕費が減少する一方で、火力発電所の高稼働に伴う火力修繕費の増加により、修繕費全体としては至近年まで同水準を維持しております。

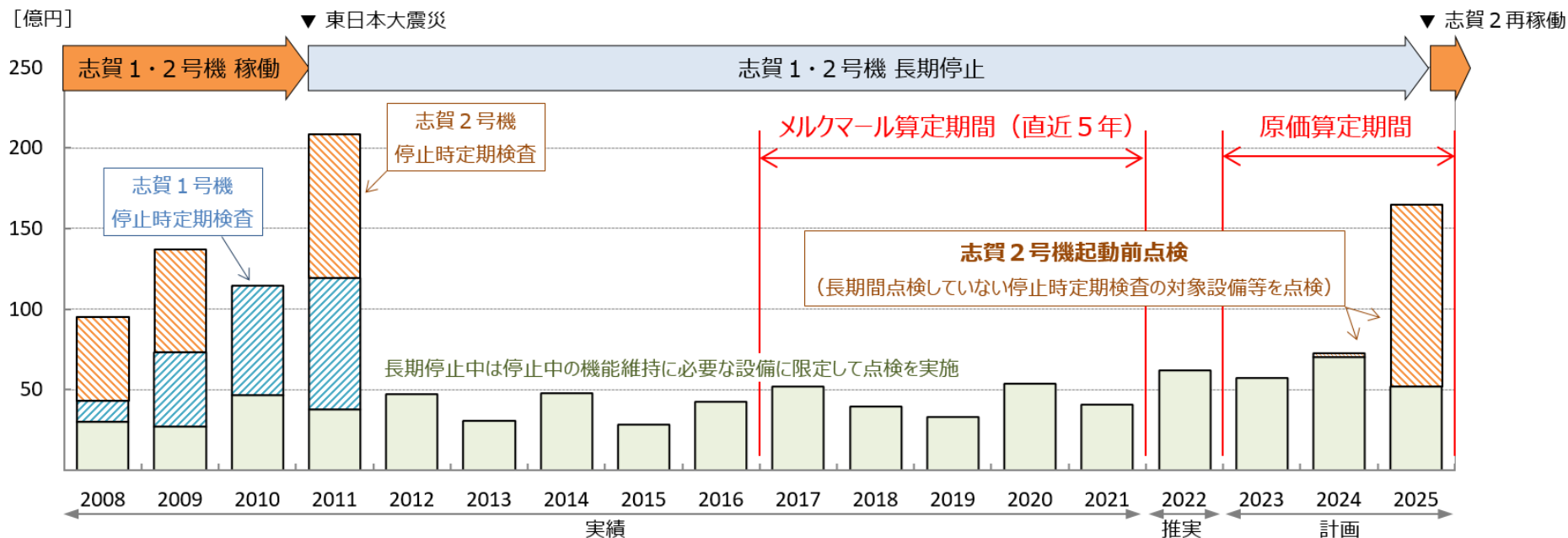
【修繕費の推移】



【北陸電力】特殊要因について

- 志賀原子力発電所2号機は、原子力規制委員会による新規規制基準適合性審査の段階であり、長期停止状態を維持していることから、2012年度以降、発電所の停止中の機能維持に必要な設備に限定して点検を行うことで、修繕費を最大限削減してきました。
- 原価算定上、2026年1月に設定した志賀2号機の再稼働後の安全・安定運転に向けて、長期間点検していない設備等の点検（志賀2号機起動前点検）が必要ですが、このような点検はメルクマールの算定期間である直近5年の実績に含まれていないため、特殊要因としております。
- なお、この起動前点検が修繕費の増加要因ではありますが、志賀2号機の再稼働を織り込むことにより、燃料費の抑制や卸販売収入の拡大等により、申請原価全体では低減が図られております。

【原子力設備の修繕費の推移】



以上